

Wireless Digital Mixers

____ 日本語オーナーズマニュアル







安全の為に

この製品を設置、使用される前に必ずお読み下さい。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使い下さい。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について



「必ず守って下さい」という強制を表 しています。



「絶対にしないでください」という禁 止を表しています。



数件 この記号は取り扱いを誤ると死亡や重傷、火災 ■ ロ の原因になる可能性がある内容に付いています。



本書を全て読むこと

この製品を設置、使用する前に必ず本書を全て よく読み、本書の内容に従って下さい。



専用電源コードは仕様に適合した電源に接続すること

適合しない電源に接続すると、本体の故障、火 災や感電の原因になる場合があります。



水分をかけたり湿気にさらさないこと

この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないで下さい。また、この製品を雨や霧にさらさないで下さい。感電や火災、故障の原因になります。



電源コードは安全に配置すること

電源コードをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないで下さい。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、電源コードが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っ掛けるような場所に配置しないで下さい。負傷の原因になる場合があります。



本体を落下しないこと

本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。



電源コードを濡れた手でさわらないこと

感電の原因となる場合があります。

禁止



禁止

大音量で使用しないこと

この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と 組み合わせて、大音量を再生しないで下さい。 一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど 接続している機器が故障する原因になる場合が あります。



異臭や異常を感じたら修理を依頼すること

正常に機能しない、電源コードやプラグに異常がある等の場合は、修理をお申し付け下さい。

禁止



移動するときはケーブルを全て抜くこと

電源コードや接続ケーブルを接続したまま本体 を移動しないで下さい。ケーブルを痛めたり、 周囲の方が転倒する原因になります。



電源コードや電源プラグに異常がある場合は使 用を中止し、修理を依頼すること

電源コードやプラグの摩耗、接触不良等の場合 は本体を使用せず修理をご依頼下さい。



長時間使用しない時や落雷の危険があるときは 電源プラグを抜くこと

火災や感電、故障の原因になる場合があります。



本体内部に液体や物をいれないこと

火災や本体故障の原因になる場合があります。 この場合は修理をご依頼下さい。



電源スイッチに手が届くよう設置すること

この製品の背面には電源を遮断する電源スイッチが付いています。この電源スイッチに簡単に手が届くよう設置して下さい。

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重傷、火災 ② 整生 この記号は取り扱いでいることに の原因になる可能性がある内容に付いています。



改造を行わないこと

決して製品内部を開いたり、ユニットパネルを 動かしたり、その他マニュアルに記載されてい ない調整を行わないで下さい。これらの行為は 感電やその他災害に繋がる可能性があります。 また、あなたの製品にも損害を与える可能性が あります。製品内部を開くと、保証対象外とな りますのでご注意下さい。



他の機器と接続するときはこの製品の電源を 切っておくこと

接続時に大音量のノイズを発生し、聴覚異常や 必ず実行 スピーカー破損の原因になる場合があります。



本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使 用しないこと

ガスが滞留して引火による火災などの原因にな ります。



電源コードは必ずこの製品に付属のものを使う こと

適合しないものを使用すると通電中に電源コー ドが加熱し、火災の原因になる場合があります。



本体内部に液体や物をいれないこと

火災や本体故障の原因になる場合があります。 この場合は修理をご依頼下さい。



この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損 注意 害の原因になる可能性がある内容に付いています。



本体は安定した場所に設置すること

本体を不安定な場所に設置すると、落下などに よる故障の原因になります。



ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加 えないこと

本体の故障やお使いになる方が怪我をする原因 になります。



高温になる場所に設置しないこと

直射日光が当たる場所、熱を発するものの近く に置かないで下さい。製品の上にろうそくなど 裸火を置かないで下さい。



本体の上に乗ったり重い物を載せないこと

製品の故障の原因になります。



乾いた布で手入れを行うこと

適合しないもので手入れを行うと、火災や本体 故障の原因になる場合があります。

必ず実行

修理

- ・ 日本仕様の Mackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携 サービスセンターで行っています。 Mackie 製品の修理やメンテ ナンスが必要な場合は、次の手順に従って下さい。
- ・ 本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容を確認して下さい。
- テクニカルサポートに電話、もしくは support_mackie@otk.co.jp にメールをし、「メンテナンス申込書」を請求して下さい。「メ ンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、04-2944-3812 へ FAX して下さい。折り返し RA 番号と送付先のサービスセンター が記載された修理受付表を FAX で返送致します。RA 番号はサー ビスセンターへ送付される前に必ず取得して下さい。
- ・ オーナーズマニュアルと電源コードは同梱しないで下さい。修 理には必要ありません。
- 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付して下さい。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
- ・ 必ず、RA 番号が記載された修理受付表のコピーを同梱して下さい。また送り状の通信欄にも、RA 番号と商品名、製造番号を記載して下さい。RA 番号のない修理品は受付することができません。

保証

- ・ 本機の保証はご購入後1年間となっております。
- ・ 正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス 担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規 定から除外されておりますので、予めご了承下さい。
- ・ お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り 扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
- ・ お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
- ・ 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あ るいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- ・ 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- ・ 正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって 故障あるいは損傷が生じた場合
- 日本国外でご使用中の故障、損害

すべてのサポート・修理に関する情報は下記 Mackie 日本語ホーム ページをご参照下さい。

mackie-jp.com/support

技術的なご質問・修理窓口

サポートセンター

〒 359-0023 埼玉県所沢市東所沢 2-37-1 塚腰運送敷地内

2 04-2944-3811

04-2944-3812

support_mackie@otk.co.jp

営業日 月曜日~金曜日 9:00~17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

営業窓口

東京 東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1

☎ 03-3639-7800 (代表)

03-3639-7801

大阪 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4

2 06-6152-7751

(FAX) 06-6152-7752

名古屋 名古屋市東区泉 1-23-30

2 052-950-3324

5 052-950-3325

広島 広島市中区富士見町 16-22-604

2 082-258-2916

082-2582917

福岡 福岡市南区大橋 4-16-18-201

2 092-554-6066

092-554-6064

営業日 月曜日~金曜日 9:00~17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

ご質問は電子メールでも承ります。

sales_mackie@otk.co.jp

Contents		ProDX の特徴
ProDX の特徴	5	シンプルかつ直感的
はじめに	6	フロントパネルのシングルノブで全てのレベルを調整
このマニュアルの使い方	6	無駄を省いたプロフェッショナル仕様のため、どこに設置をしても景観を保持
その他の注意	6	・ ウルトラコンパクトな本体により持ち運びが簡単で、タイトな
クイックスタート		スペースにもしっかり収納可能
	6	お持ちのスマートフォンでミックスをクイックビュー
接続図	7	iOS と Android デバイス向けの MixerConnect™ アプリを使っ
ProDX: リアパネルの機能	10	て、ワイヤレスストリーミング / コントロールを実現
MixerConnect アプリ	10	・ Bluetooth® を用いてミュージックやバックトラックをストリー
1. 電源コネクター	10	ミング
2. 電源スイッチ	10	レベル・EQ・エフェクトなどをどこからでもコントロール素早いセットアップを可能にするリコール可能なミックスプリ
3. XLR &バランスフォンコンボジャックインプット	10	セット
ProDX: リアパネルの機能	11	ミキサーを人目のつかない場所に設置しても、ワイヤレスでコ
4. Bluetooth / Line 入力	11	ントロール
5. メイン出力 L/R	11	内蔵されたパワフルなプロセッサーで思い通りのサウンドを
6. AUX 出力	11	チャンネル毎にローカット機能を含めた3バンドのEQを搭載
7. フォン	11	・ コンプレッションによりボーカルや楽器の突発的なノイズを軽
8. アップデート	11	減可能
ProDX: フロントパネルの機能	12	・ リバーブ、ディレイやコーラスなどといった 16 種類のエフェクトをかけることができる ReadyFX™ を内蔵
9. コントロールブリッジ	12	最終的なミックスを調整することができる柔軟なグラフィック
10. メーター	12	EQ を出力部分に搭載
11. チャンネルボタン	12	豊富な I/O
12. Bluetooth / Line 入力ボタン	12	ゲインの調整を最低限に抑えることのできる、マイク・ギター・
ProDX: フロントパネルの機能	13	キーボードなどの単純な接続向けの Wide-Z™ 入力端子を搭載
13. レベル	13	 ステレオミニ入力端子もしくは Bluetooth® を使用してお持ちのメディアプレイヤーを接続 LR メイン出力からあなたの PA スピーカーや、パワーアンプ、スタジオモニターを接続 AUX センドにより個人用のモニターミックスや、複数のゾーンミックスなどを作成可能 モニター向けのヘッドフォン出力端子を搭載
14. メインボタン	13	
15. MIX ボタン	13	
16. FX ボタン	13	
17. ヘッドフォンボタン	13	
18. 工場出荷時に戻す(メモリーリセット)	13	・ モース・回りのパットフォン田万畑」を追載
19. 最後に	13	
付録 A:サービスについて	14	
トラブルシューティング	14	
付録 B:技術情報	15	
ProDX 仕様書	15	
ProDX4 寸法	16	
ProDX8 寸法	17	
ProDX ブロックダイヤグラム	18	
付録(・・エフェクトプリセットリスト	19	

はじめに

ProDX シリーズはソロパフォーマー、小規模なバンド、商業施設な ど、多くのチャンネルを必要としない方・場所向けにデザインされ ています。コンパクトなデザインかつ直感的・シンプルな操作を可 能とするインターフェースが本機の大きな特徴です。

シングルノブデザインを採用し、素早く手軽にレベルの調整ができ ます。また MixerConnect™ アプリにより、ミックスのプリセットの セーブ、チャンネル毎の EQ やコンプレッサーといった内蔵プロセッ サー、素晴らしいエフェクトを手軽に適用できる ReadyFX™ などいっ た包括的なワイヤレスコントロールを可能にします。

さらに、Bluetooth® ストリーミングにより BGM やバックトラック をスマートフォンから再生することができます。ProDX はワイヤレ スコントロール機能を搭載し、パワフルかつコンパクトなデジタル ミキシングが可能な、これまでに類を見ないミキサーデザインと なっています。

このマニュアルの使い方

この後に続くクイックスタートガイドでは、本機を設定するための 手順が説明されています。接続例では典型的な使用例を紹介し、残 りのページで本機の詳しい使い方についてご説明します。



このアイコンは ProDX で特に重要、あるいは独自の情報 を示す際に使われています。よく読み、覚えておくと良 いでしょう。



このアイコンは機能に関する説明や実用上のヒントを示 す際に使われています。知っておくと便利で価値のある 情報が記載されています。



このアイコンは ProDX を使用する際の機能や役に立つ情 報を紹介する際に使われています。

その他の注意

- 長時間、大音量で音楽を聴くと難聴の原因となる恐れがありま す。P.2~P.3 の安全条項をよく読んで下さい。
- ・ 梱包箱と同梱物は大切に保管して下さい! 将来必要になる時が くるかもしれません。梱包箱がペットの遊び場になってしまっ ても、怒らないであげて下さいね。
- ・ 保証書は大切に保管して下さい。

クイックスタート

以下の手順に従うことで ProDX を素早く設定できます。

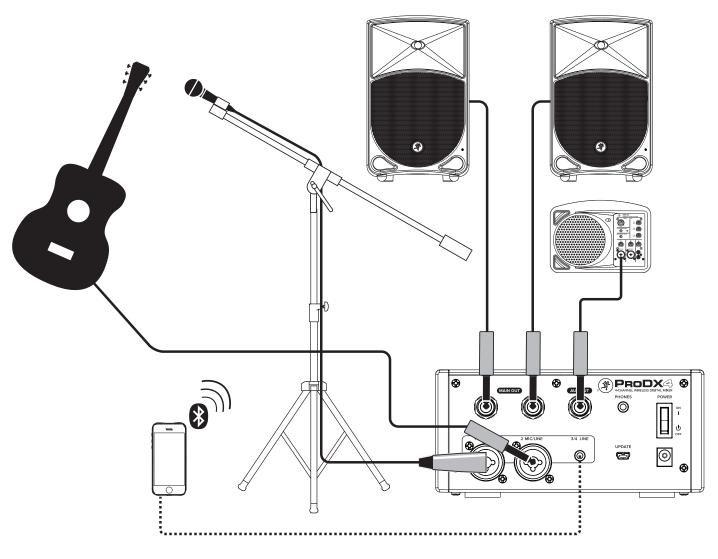


NOTE 本書は ProDX のハードウェアマニュアルです。一通り の動作確認ができたら、スマートフォンとペアリング (Bluetooth 接続) して MixerConnect アプリから各機能

をコントロールしてみましょう(詳細は P.8 をご参照下さい)。

- 1. ケーブルを接続する際は全ての機器の電源スイッチをオフに して下さい。
- 2. ケーブルを使用しメインアウトからパワードスピーカー(もし くはパッシブスピーカーに接続されているパワーアンプ)へ接 続して下さい。
- 3. 下記のように、機器を接続します。:
 - マイクロフォンはマイク入力へ
 - アクティブピックアップを搭載したアコースティックギ ターなどの楽器レベルのソースや、キーボードや電子ドラ ムといったラインレベルのソースは、コンボジャックへ接 続して下さい。
 - ・ スマートフォンやコンピュータ、MP3 プレイヤーなどといっ たミュージックソースは、ステレオミニ入力を使用するか、 Bluetooth でペアリングして下さい。
- 4. 電源アダプターのコネクターを慎重に ProDX に差し込み、も う一方の端を電源コンセントに接続して下さい。
- 5. ProDX の電源を入れて下さい。
- 6. パワードスピーカー (もしくはアンプ) の電源を入れて下さい。
- 7. 入力レベルが正しく調節されているかご確認下さい。対応する チャンネルボタンを押して入力チャンネルを選択し、レベルが 大体半分程度になっていることを確認して下さい。ソースを異 なったレベルに設定したい場合は、ロータリーノブを回してお 好みで調整して下さい。
- 8. フロントパネルで Main を選択し、エンコーダを使用してマス ター出力が聴きやすい音量になるようレベルを調整します。
- 9. 本書の残りのマニュアル、そして MixerConnect アプリのマニュ アルをよく読んで各機能の理解を深めましょう。

接続図

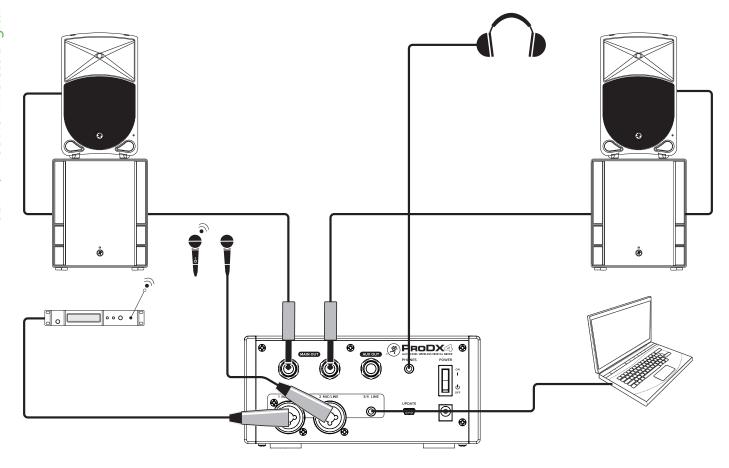


ProDX4 は非常にコンパクトなサイズの為、シンガー・ソングライターがカフェなどで使用する際の最適なツールとなります。こ の接続例では、あなたのお気に入りのアコースティックギターとマイクを使用します(接続に必要なケーブルもご用意下さい)。 それからスマートフォンも忘れないで下さいね。機材が揃ったら、あとはソーシャルメディアを使ってライブスケジュールを告 知するだけです。ProDX でバッキングトラックを再生するには Bluetooth (もしくはステレオミニ入力)を使って接続して下さい。 MixerConnect アプリを使って本体をワイヤレスでコントロールすることもできます。

マイクは入力チャンネル1に、そしてギターは入力チャンネル2に接続されています。上記でも説明した通り、スマートフォン は Bluetooth (もしくはステレオミニ入力) を用いて接続して下さい。レベルは P.12 の手順に従って調整します。

あなたの素晴らしい、そして美しい楽曲が観客へと届きます。この接続例ではThump12を使っています。そしてSRM150を自分 自身のモニターとして使用しており、ProDX の AUX 出力端子と接続されています。

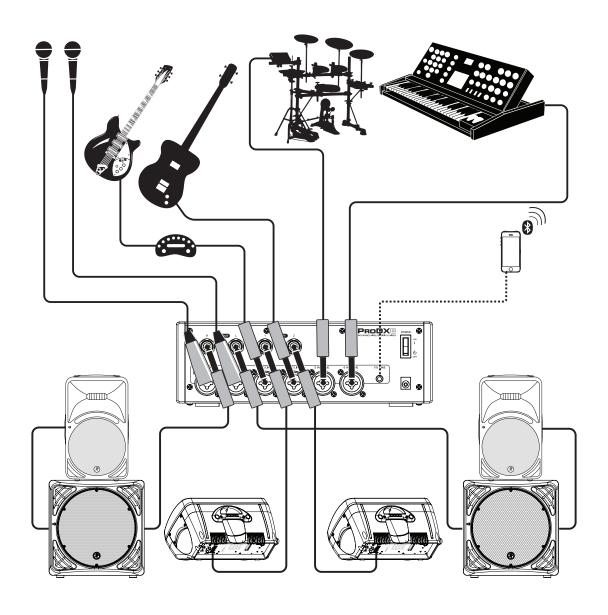
接続図



前ページではそのコンパクトなサイズに焦点をあてて説明しましたが、ProDX はそれだけではありません。ProDX には大きなデジタルミキサーに匹敵するような機能が詰まっています。これからその一部をご紹介します。典型的なバーやクラブの設備、またDJのセットアップなどに最適です。ハウス DJ は、地方のダンスクラブ・ハウスパーティ・ブロックパーティなどといったお気に入りの場所で、忘れられない程素晴らしい夜を演出するため、必要な全ての機材を持ち込みます。

マイクは入力チャンネル 1(ワイヤレス)とチャンネル 2 に、またラップトップ(ミュージックライブラリの再生)は入力チャンネル 3/4 のステレオミニ入力を用いて接続して下さい。レベルは P.12 の手順に従って調整します。

これでプレイリストは Thump185 サブウーファーと、Thump15 ラウドスピーカーから再生され、観客は踊らずにはいられなくなるでしょう。それから、ステレオミニ入力にヘッドフォンを接続することを忘れないで下さいね。

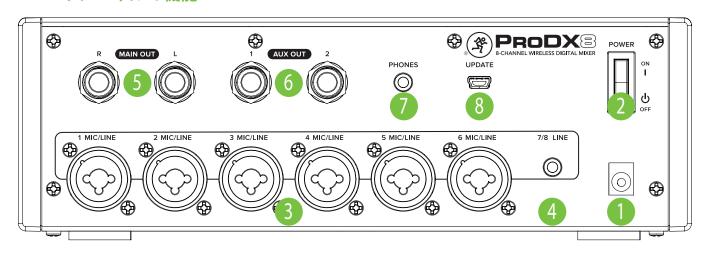


これまでの2つの接続例は、ProDXの機能の一部を紹介しただけに過ぎません。より接続する機器が多い場合の例を見てみましょう。 上記の図をご覧頂ければ、典型的なバンドセットに必要な楽器が接続されていることがわかります。これで地元のクラブで演奏し たり、バンドで練習したりすることができます。

この接続図ではマイクが入力チャンネル1と2に接続され、ギター(エフェクターを介しています)とベースは直接入力チャンネ ル3と4に接続されています。この段階では、全体の入力チャンネルの半分しか使っていません。それでは、電子ドラムを入力チャ ンネル5に接続し、イカしたシンセサイザーを入力チャンネル6へ接続します。そしてステレオミニの入力チャンネル7/8(もち ろん Bluetooth でも構いません) にスマートフォンを接続します。レベルは P.12 の手順に従って調整します。

観客向けの PA はペアの SRM1550 サブウーファーと、同じくペアの SRM450 を使用しています (メイン L/R 出力と接続しています)。 また演者用のモニタースピーカーとして、SRM450が複数台接続されています(AUX出力と接続しています)。

ProDX: リアパネルの機能



MixerConnect アプリ

ProDX は MixerConnect アプリを用いることでその機能を十分発揮できるようにデザインされています。アプリを使うと、本体で設定できるもの以上の機能を発揮することができます。更に Bluetooth を介して接続することで、リモートでの操作を可能にします。ProDX本体の電源のオン/オフのみ、MixerConnect アプリで制御することはできません。

MixerConnect アプリに関する更なる情報は、MixerConnect アプリリファレンスガイドをご参照下さい。MixerConnect アプリリファレンスガイドは Mackie Japan のホームページよりダウンロードが可能です。

1. 電源コネクター

付属の電源コードを用い、ProDX 本体のリアパネルにあるジャックに接続します。電源コードのもう片側は電源コンセントに接続して下さい。

本機は 100V 専用モデルです。日本国外での使用はできません。



同梱されている AC アダプター以外は使用しないで下さい。

2. 電源スイッチ

このスイッチを押しこむことで電源を入れます。上部を押すことで 電源が入り、下部を押すことで電源を切ることができます。

3. XLR & バランスフォンコンボジャックインプット

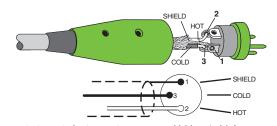
ProDX4 は 2 つの Wide- Z^{TM} 、ProDX8 は 6 つの Wide- Z^{TM} コンボ入力を持っています。これらの入力チャンネルは XLR コネクタを使いマイク信号をバランスで入力することができます。配線は以下のようになっています。これは AES(Audio Engineering Society) が定めたものです。

XLR バランス配線:

Pin 1 = シールド (グラウンド)

Pin 2 = プラス (+ もしくはホット)

Pin 3 = マイナス (- もしくはコールド)

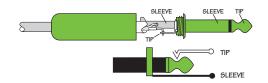


加えて、これらの入力チャンネルは Hi-Z 接続にも対応しているので、 ギターなどのハイインピーダンス楽器を DI ボックス無しで直接接 続することができます。

アンバランスラインのシグナルを入力に接続する場合は、1/4 インチモノラルフォン(TS)プラグを使用します。配線は以下の通りです。

1/4 インチTS アンバランス MONO ワイヤリング

スリーブ = シールドまたはグラウンド チップ = 陽極(+ またはホット)





| 決してアンプからの出力を ProDX のインプットに接続しないで下さい。入力回路の破損の原因となる場合があり | ます。そんなことは誰ものぞまないですよね?

入力チャンネルを選択するは、Channel ボタン [11] が有効になって おり、かつ Mix ボタン [15] が Main, Aux 1, Aux 2 (Aux 2 は ProDX8 のみ) もしくは FX に設定されている必要があります。 その後、ロータリー ノブでレベルの調整ができます。 これらの機能については P.12 から P.13 で詳しく説明しています。

ProDX: リアパネルの機能

4. Bluetooth / Line 入力

このステレオ入力チャンネル(ProDX4 では 3/4、ProDX8 では 7/8) はスマートフォンや MP3 プレイヤーなどから、ラインレベルの 信号をステレオミニフォンで入力することができます。これは Bluetooth に使われているチャンネルと同じです。

入力チャンネルを選択するは、BT / Line In ボタン [12] が有効になっており、かつ Mix ボタン [15] が Main, Aux 1, Aux 2 (ProDX8 のみ)もしくは FX に設定されている必要があります。その後、ロータリーノブでレベルの調整ができます。これらの機能については次の 2ページで詳しく説明しています。



静電気放電 (ESD) や電気高速過度現象 (EFT) が発生すると、機器の誤動作の引き金となり Bluetooth 接続が解除される場合があります。この場合は、もう一度手動で

Bluetooth を接続し直して下さい。

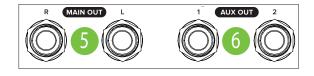


決してアンプからの出力を ProDX のインプットに接続しないで下さい。入力回路の破損の原因となる場合があります。



1/8 インチステレオミニプラグと Bluetooth を同時に接続して使用することはできません。ライン入力端子に物理的にケーブルを差し込むと、Bluetooth 接続よりも有

線接続が優先されます。例えばスマートフォンを Bluetooth 接続して音楽を再生している時に、ケーブルを使って MP3 プレイヤーを接続すると、スマートフォンからの音楽は遮断され、MP3 プレイヤーからの音源が優先されます。



5. メイン出力 L/R

1/4 インチ TRS フォンコネクターの出力端子は、フルにミックスされたステレオ信号を、バランスもしくはアンバランスのラインレベルにて出力します。これらの LR の端子にメインのパワーアンプ、パワードスピーカー、エフェクトプロセッサー (グラフィック・イコライザーやコンプレッサー/リミッターなど) などを接続します。

メイン出力を選択するには、MAIN ボタン [14] を選択し、また Mix ボタン [15] で MAIN を選択する必要があります。その後、ロータ リーノブでレベルの調整ができます。これらの機能については次の 2 ページで詳しく説明しています。

6. AUX 出力

ProDX4 は 1 つの AUX 出力、ProDX8 は 2 つの AUX 出力端子を搭載しています。これらの 1/4 インチ TRS フォン (バランス) 出力は、各チャンネルのプリフェーダー AUX レベルでミックスされます。これらのラインレベルの出力は、モニターとしてパワードスピーカーを使用する際に使うことが多いです。

AUX 出力を選択するには、MAIN ボタン [14] を押し、また MIX ボタン [15] で AUX1 (または AUX2) を選択する必要があります。その後、ロータリーノブでレベルの調整ができます。5 秒間非アクティブ状態が続くと、選択しているチャンネルはデフォルトの「Main」に戻ります。これらの機能については次の 2 ページで詳しく説明しています。

7. フォン

このステレオミニフォン端子からは、ヘッドフォン向けのステレオ 信号が出力されます。ミックスはメインの L/R と同等ですが、独立 した出力レベルの調整を行うことができます。ヘッドフォンはヘッドフォンアイコンのボタン [17] を押すことで選択され、レベルは本体のロータリーノブでコントロールすることができます。

フォン出力の配線は以下の通りです。

チップ = L チャンネル リング = R チャンネル スリーブ = グラウンド



WARNING: このヘッドフォンアンプはかなりの音量で再生されることがあるため、難聴の原因となる場合があります。ヘッドフォンによっては中程度のレベルでも痛い

ほどの音量となる可能性があります。ご注意下さい! ヘッドフォンを接続する前に、必ずレベルコントロールを最小まで絞るようにして下さい。ボリュームの調整は、できる限りゆっくりと行うようにして下さい。



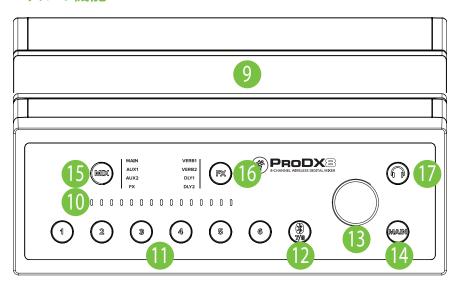
8. アップデート

ミキサーのファームウェアアップデートが必要になった場合、この端子を使います。ProDX を Mac もしくは Windows Pc に mini USB 端子を利用して接続し、アプリケーションを起動して画面の指示に従って下さい。



ファームウェアのアップデートが有効にならない限り、 この端子を使用する必要はありません。

ProDX: フロントパネルの機能



9. コントロールブリッジ

コントロールブリッジにはスマートフォンや小さいサイズのタブレットを設置することができます。ここにデバイスを設置して、MixerConnect アプリの画面を表示させて下さい。

10.メーター

この15に区切られたLEDディスプレイはレベルコントロールのために選択したチャンネルの、出力メーターやレベルを確認することができます。現在選択されている入力もしくは出力のレベルを変更した際、LEDは白く光り、操作をせず5秒が経過すると、メイン出力のオーディオメーターを緑のLEDで表示します。

11. チャンネルボタン

ProDX4 には 2 つ、ProDX8 には 6 つのチャンネルボタンが搭載されています。両モデルともさらにステレオ入力チャンネル /Bluetoothボタンを搭載しています。機能については次の[12]をご参考下さい。

チャンネル(入力)ボタンは MIX ボタンと同等に動作します [15]。 出力アサインしたいミックスを選んだ後、チャンネルボタンを押し て選択します。選択された場合、白く発光します。選択後、チャン ネルの入力レベルを調整して下さい。レベルはメイン出力、AUX 出 力そして FX に反映されます。チャンネルレベルは白色 LED で表さ れます。5 秒間非アクティブ状態が続くと、選択しているチャンネ ルはデフォルトの「Main」に戻ります。



チャンネルボタンはチャンネルに入力される信号のレベルが高すぎる場合に赤く点灯し、信号がOL(オーバーロード)していることをお知らせします。OL LED が点灯して

しまうと、音声信号が歪んでしまう可能性があります。頻繁にこの 状態が続く場合、ソースのレベルを下げるか、マイクの位置を調整 するなどして下さい。

12. Bluetooth / Line 入力ボタン

この入力は前述したチャンネルボタンと似たように機能します。 ミックス [15] を選んだ後、Bluetooth / Line In ボタンを押して選択します。選択された場合、白く発光します(ペアリングの有無に関わらず)。選択された後、Bluetooth / Line In のレベルを調整して下さい。 ここで調整したレベルはメイン出力、AUX 出力と FX に影響されます。チャンネルレベルは白色 LED で表されます。5 秒間非アクティブ状態が続くと、選択しているチャンネルはデフォルトの「Main」に戻ります。

また、ProDX と Bluetooth 対応デバイスをペアリングする際にも使用します。ペアリングモードに入るには、BT / Line In ボタンを長押しして下さい。ペアリングモード中は、白色 LED が点滅します。ProDX がペアリングモードに入ると、LED の点滅と同時に Bluetooth デバイスをスキャンします。お持ちのデバイスのリスト上に、ProDX が新たに確認できます。ProDX を選択後、お持ちのスマートデバイス上で、問題なくペアリングができたかどうか確認を行って下さい。もし上手く行かなかった場合、ペアリングの作業をもう一度行って下さい。この時、ProDX とお持ちのデバイスが同時にペアリングモードに入っているかどうかをご確認下さい。MixerConnectリファレンスガイドにはスクリーンショットとあわせて詳細な手順が記載されていますので、ご参照下さい。

NOTE ステレオ入力端子を使用してスマートフォンもしくは MP3 プレイヤーが接続されている場合、Bluetooth のチャンネルコントロールを使ってレベルを調節することができます。

NOTE パフォーマンスの最中は機内モードに切り替えて頂くことをお勧めします。これで干渉はなくなりますよ。

VERY IMPORTANT

静電気放電(ESD)や電気高速過度現象(EFT)が発生すると、機器の誤動作の引き金となり Bluetooth 接続が解

除される場合があります。この場合は、もう一度手動で Bluetooth を接続し直して下さい。

ProDX: フロントパネルの機能

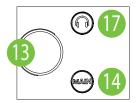
13. レベル

ロータリーノブにはいくつかの役割があります。選択されているボタンに応じて、インプットレベル、AUX レベル、FX レベル、トータルボリュームを調整できます。ノブを時計回り、もしくは反時計回りに回すことで、それぞれのレベルを調整することができます。

NOTE デフォルトでは「Main」が選択されています。他のボタンに切り替えた時は5秒以内に操作を開始して下さい。5秒間非アクティブ状態が続くと、選択しているチャンネルはデフォルトの「Main」に戻ります。

14. メインボタン

MAIN (出力レベル) ボタンは MIX ボタンと同等に動作します [15]。ミックスを選んだ後、MAIN ボタンを押して選択します。 選択された場合、白く発光します。選択されたら、本体のロータリーレベルノブ



でレベルの調整が可能です。出力レベルは白色 LED で表されます。

デフォルトでは MAIN ボタンが選択されているため、非アクティブ 状態が 5 秒続くと自動的にメインボタンへと戻ります。

15. MIX ボタン

MIX ボタンはチャンネルボタン [11, 12] と MAIN ボタン [14] の両方で働きます。MAIN(デフォルト)、AUX1、AUX2(ProDX8 のみ)、FX などのミックスを、MIX ボタンを繰り返し押すことで選択します。選択されているミックスは白色に光ります。

ミックスが選択されたら、チャンネルボタンを押してそのミックス に反映されるレベルを調整します。 もしくは MAIN ボタンを押して そのミックスの出力レベルを調整します。

選択後、本体のロータリーレベルノブでレベルの調整が可能です。 レベルは白色 LED で表されます。5 秒間非アクティブ状態が続くと、 選択しているチャンネルはデフォルトの「Main」に戻ります。



16. FX ボタン

ProDX はリバーブ、ディレイ、コーラス、それらの組み合わせを含む 16 種類のエフェクトを搭載しています。

フロントパネルでは 4 つのプリセットエフェクト(Verb 1, Verb 2, Delay 1, Delay2)を選択できます。FX ボタンを使用したいプリセットが選択されるまで繰り返し押します。選択するとボタンは白色に点灯します。

追加のエフェクトは MixerConnect を利用して選択することができるようになります。アプリではマスター FX リターンレベルを調整することもできます。詳細については Mackie Japan ホームページより Mackie Connect のリファレンスガイドをご覧下さい。



各エフェクトの詳細につきましては、P.19 をご覧下さい。

17. ヘッドフォンボタン

ヘッドフォンのアイコンボタンを押して選択します。選択された場合、白く発光します。選択されたら、本体のロータリーレベルノブでレベルの調整が可能です。これによりヘッドフォンの出力レベルを調整できます。ミックスはメインの L/R と同等ですが、独立した出力レベルの調整を行うことができます。出力レベルは白色 LED で表されます。5 秒間非アクティブ状態が続くと、選択しているチャンネルはデフォルトの「Main」に戻ります。



WARNING: このヘッドフォンアンプはかなりの音量で再生されることがあるため、難聴の原因となる場合があり

ます。ヘッドフォンによっては中程度のレベルでも痛いほどの音量となる可能性があります。ご注意下さい!ヘッドフォンを接続する前に、必ずレベルコントロールを最小まで絞るようにして下さい。ボリュームの調整は、できる限りゆっくりと行うようにして下さい。

18. 工場出荷時に戻す(メモリーリセット)

MixerConnect アプリを介して設定を行った場合、ProDX を工場出荷時の状態に戻す必要が出てくるかと思います。

実行する前に、レベル設定、EQ 設定などの全ての要素が消去されることを念頭に置いて下さい。ProDX をリセットする前に、アンプやパワードスピーカー等の電源が切れているか必ず確認を行って下さい。チャンネル 1、チャンネル 2、MAIN ボタンを数秒間同時押しすることで、ProDX を工場出荷時の状態に戻すことができます。



リセットを実施すると、前回ペアリングした機器の情報 もメモリから完全に消去されます。問題を回避するには、 このデバイスの登録の解除をタップし、再度ペアリング

を行って下さい。

19. 最後に

ProDX はとてもクールなミキサーで、コンパクトなボディに様々な機能が詰まっています。無料の MixerConnect アプリを使ってスマートフォンとペアリングをすると、さらに新たな世界が広がることでしょう。本書では簡潔にミキサーのハード部分の説明をしました。加えて Mackie Japan ホームページより MixerConnect リファレンスガイドを読んで頂くと、ProDX とどのように連携して操作できるのか、より深い部分まで理解して頂くことができます。快適なミキシングライフをお送り下さい!

付録 A:サービスについて

ProDX に問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認下さい。弊社ウェブサイトのサポートセクションをご覧下さい (mackie-jp.com/support)。

下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、また は明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求めの販売代理店まで修理をご依頼下さい。

トラブルシューティング

電源が入らない

- ・私たちの大好きな質問です。AC コードは接続されていますか?コンセントが電力を供給しているかテスターなどで確認して下さい。
- ・次にお気に入りの質問です:パワースイッチをオンにしましたか?そうでなければ、スイッチをオンにして下さい。
- ・内部の AC ラインヒューズがとんでいませんか?これは ユーザーご自身で対応できる症状ではありません。AC ラ インヒューズに問題があることが疑わしい場合は、次の「修 理」のセクションをご覧下さい。

音が出ない

- ・インプットレベルを絞りきっていないですか?システム内 の全てのボリュームコントロールが適切に調整されている か確認して下さい。ProDX のレベルメーターを見て信号が 入力されているかを確認して下さい。
- ・ シグナルソースは機能していますか?ケーブルに問題がないこと、両端でしっかり接続されていることを確認して下さい。接続している機器のボリュームコントロールが、十分な程度上がっていることを確認して下さい。
- ・接続している機器の電源がオンになっていることと、 ミュートされていないかということを確認して下さい。こ のような状況の場合、問題の機器を外す前に必ず音量 / ゲ インを下げて下さい。

音が良くない

- ・ 音量が大きくて歪んでいますか?信号経路で過大入力と なっている原因がないかを確認して下さい。システム内の 全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか 確認して下さい。
- ・ 入力コネクターがジャックに最後までしっかり挿し込まれていますか?全ての接続に問題がないことを確認して下さい。

ノイズが出る

- ProDX に接続している全ての機器の出音に問題がないことを確認して下さい。
- ・ 信号ケーブルを電源コードや電源トランスなど電磁干渉を 発生するものの近くに設置しないで下さい。
- ProDX と同じ電源回路に、照明用のディマーや SCR ベースの機器を接続していませんか? AC 電源フィルターを使うか、ProDX を別の AC 電源回路に接続して下さい。

ハムノイズ

- ・メインインプットジャックに接続したケーブルを抜いて下さい。これでノイズが消えた場合は、ProDX に問題があるのではなく、グラウンドループによるノイズが発生しているのかもしれません。以下のトラブルシューティングを試してみてください。
- ・ ノイズを最大限除去するため、システム全体をバランスで接続して下さい。
- ・可能な場合は音響機器の電源コードを、全てコモングラウンドを共有するコンセントに接続して下さい。コンセントとコモングラウンドの距離は可能な限り短くして下さい。

Bluetooth に関するトラブル

下記サポートアドレスまでメールにてお問い合わせ下さい。

support_mackie@otk.co.jp

修理に関しての詳細は P.4 をご参照いただくか、下記 Mackie 日本 語ホームページをご参照下さい。

mackie-jp.com/support

その他詳細のお問い合わせは下記よりご連絡下さい。

mackie-jp.com/contact

付録 B:技術情報

ProDX 仕様書

デジタル部

サンプルレート48 kHzA/D/A ビット深度24- ビットシステムレイテンシー<2 ms</td>

周波数特性

全入力から全出力 20 Hz to 20 kHz, ± 1 dB

ノイズ / クロストーク / ダイナミックレンジ

THD+N

マイク入力からメイン出力,-25 dBu 入力 <0.005%

(20 Hz - 20 kHz, A-weighted)

クロストーク

Adjacent Inputs <-85 dB

Outputs <-85 dB

ダイナミックレンジ

マイク入力からメイン出力 , A-weighted 105 dB

最大レベル (1% THD+N)

XLR 入力 -12 dBu 1/4" 入力 +14 dBu 1/8" 入力 +9 dBu メイン出力 +14 dBu AUX 出力 +14 dBu

ヘッドフォンアウト 180m W / 600 Ω

インピーダンス

XLR 10 k Ω バランス 1/4" >5 M Ω アンバランス 1/8" 9 k Ω アンバランス 10 Ω アンバランス

その他の全ての出力 100 Ω アンバランス /

200 Ω バランス

<u>チャンネル・プロセッシング</u>

ローカット Off, 20 Hz - 400 Hz, 12 dB / octave

ローシェルビング ± 12 dB @ 80 Hz

ミドルピーク \pm 12 dB sweep, 100 Hz - 8 kHz

ハイシェルビング \pm 12 dB @ 12.5 kHz

コンプレッション シングルスライダー , off to max

システムプロセッシング

FX 16 プリセット

出力 GEQ 7- バンド, ± 12 dB

125, 250, 500, 1k, 2k, 4k, 8k

メモリープリセット 3

電源

電源コード 100-240VAC, 50-60 Hz,

ユニバーサルサプライ

18VDC, 0.5A

動作温度(許容室内温度範囲) 0~40℃

Bluetooth 情報

Bluetooth プロトコル 3.0

Bluetooth ファンクション オーディオストリーミング

UIコントロール

<u>寸法 / 重量</u>

ProDX4

高さ 76 mm 幅 160 mm 奥行き 140 mm 重量 1.0 kg

ProDX8

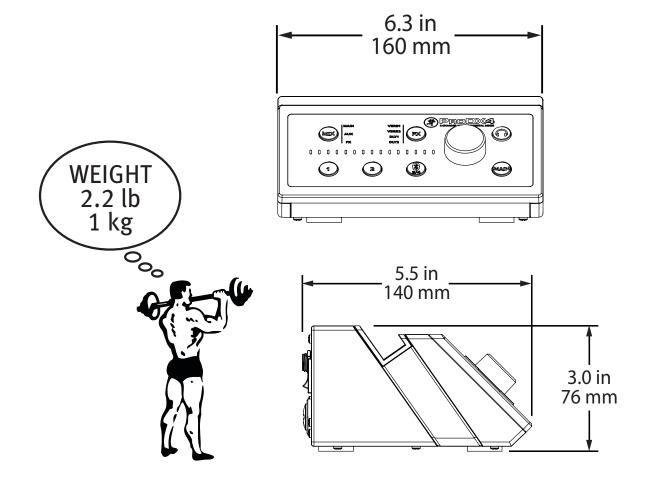
高さ 76 mm 幅 230 mm 奥行き 140 mm 重量 1.5 kg

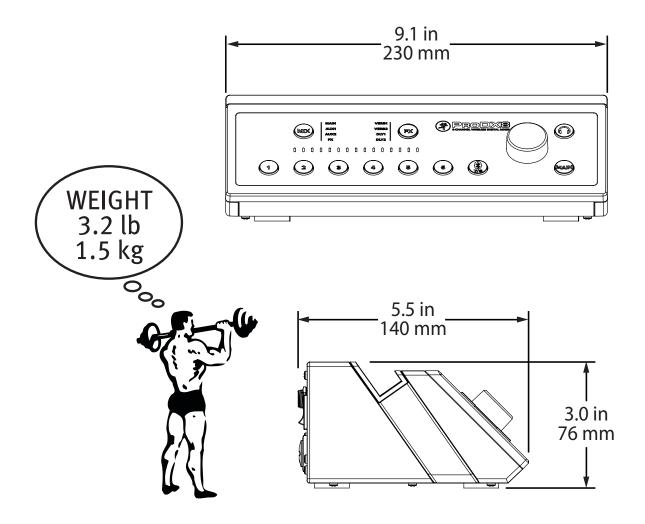
アクセサリー

ProDX4 バッグパーツ番号2036809-40ProDX8 バッグパーツ番号2036809-40

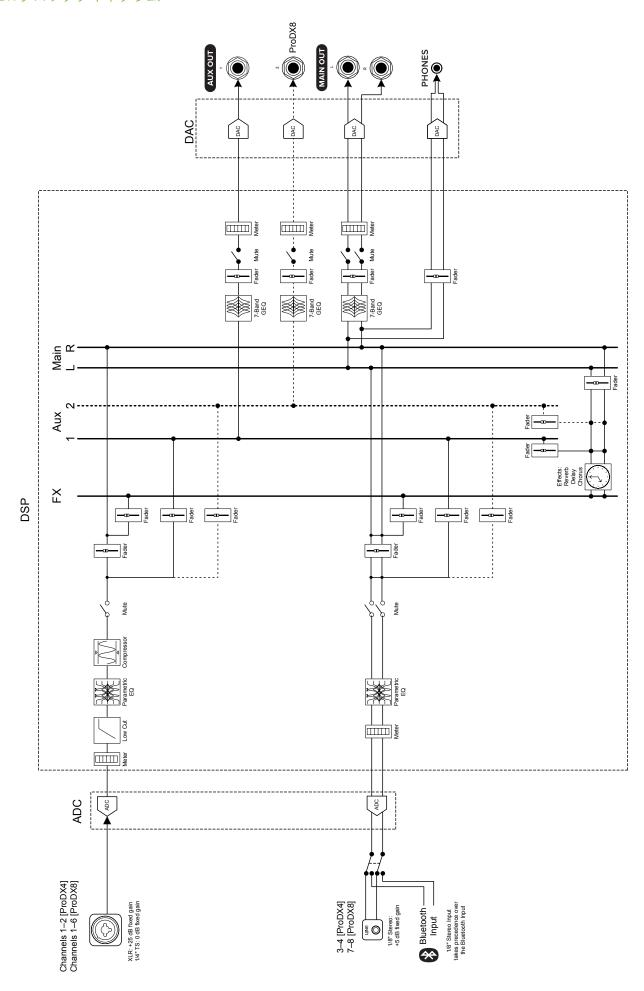
LOUD Technologies 社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観及び仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running man」は LOUD Technologies 社の登録 商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標で す。





ProDX ブロックダイヤグラム



付録 C: エフェクトプリセットリスト

下記リストのエフェクトは MixerConnect アプリからアクセスできます。Verb 1、Verb 2、Delay 1、Delay 2 の 4 つのエフェクトは ProDX 本 体からアクセスできます。

MixerConnect アプリからエフェクトを選択した場合、本体の FX ボタンは点灯しません。

Title	Description	Example of its use
Bright Room	トーンは明るめの、反射音が拡散するスペースで、固く反射し やすい壁をシミュレートしています。	ボーカルをミックスで浮き立たせる明るいリバーブです。ア コースティック楽器にかけるとライブ感が増します。
Warm Lounge	中程度の広さのルーム/ラウンジをシミュレートしていて、中 低域を少しだけ強調した温かみのあるトーンです。	広がりのある「ウェット」なボーカルが求められる曲に最適です。明るいホーンセクションにかけると耳障りにならず広がりを持たせることができます。
Small Stage	中程度のリバーブタイムと残響を持つ小さいコンサートステー ジをシミュレートしたプリセットです。	アップテンポのボーカルやギター、エネルギッシュな曲にか けると、ライブ感のあるリバーブになります。
Warm Theater [Verb 2 on ProDX]	どっしりした音で中程度の長さのリバーブが特徴で、劇場空間 の響きをシミュレートしています。	ボーカル、ドラム、アコースティック/エレクトリックギ ター、キーボード、その他に適しています。
Warm Hall	広々として居心地が良く、ドレープやカーペットに囲まれたコンサートホールをシミュレートしたリバーブで、とても暖かみのあるサウンドです。	
Concert Hall	大きく広がりのあるサウンドや長いプリディレイ、響き渡る トーンといった特徴を持つホールの残響をシミュレートしたリ バーブです。	
Plate Reverb [Verb 1 on ProDX]	金属プレートのビンテージリバーブマシンをエミュレートした プリセットです。大量の初期反射音が特徴で、プリディレイは ありません。	
Cathedral	石壁に囲まれた大きな礼拝堂のような、残響が長く密度の高い、 また長いプリディレイと反射音を特徴とするリバーブです。	コーラス、管楽器、オルガン、ソフトなアコースティックギ ターに驚くほどの深みを与えます。
Chorus	ソフトで微妙なスイープエフェクトを生み出すプリセットで、 特定のサウンドに厚みを加えてミックスの中で際立たせるとき に有用です。	
Chorus + Reverb	上記のコーラスエフェクトと大きな空間のリバーブエフェクト の見事なコンビネーションのプリセットです。	コーラスエフェクトによってサウンドに厚みを加わると同時 に、スムーズなリバーブによって温かみと広がり感が追加さ れます。
Doubler	ボーカルや楽器などをマルチトラックレコーダーで2回重ね録りしたサウンドをエミュレートしたエフェクトプリセットです。	
Tape Slap [Delay 1 on ProDX]	オリジナルのシグナルに比較的短いディレイが一度だけかかり ます。ディレイサウンドはビンテージのテープエコーのような 温かいトーンです。	
Delay 1 [Delay 2 on ProDX]	ディレイタイムが 300 ms のプリセットです。ディレイタイムが短いほど、ディレイのスピードは早くなります。	アップテンポのロックで素材をミックスになじませたいとき に短いディレイを使用すると効果的です。
Delay 2	ディレイタイムが 380 ms のプリセットです。ディレイタイム が短いほど、ディレイのスピードは早くなります	アップテンポのロックで素材をミックスになじませたいとき に短いディレイを使用すると効果的です。
Delay 3	ディレイタイムが 480 ms のプリセットです。ディレイタイム が短いほど、ディレイのスピードは早くなります	アップテンポのロックで素材をミックスになじませたいとき に短いディレイを使用すると効果的です。
Reverb + Delay	リバーブエフェクト(Warm Theater)に3回くり返されるディ レイエフェクトを組み合わせたプリセットです。	ボーカルに深みを与えると共に空間を広げます。エレクト リックギターの空間系エフェクトとしても最適です。

